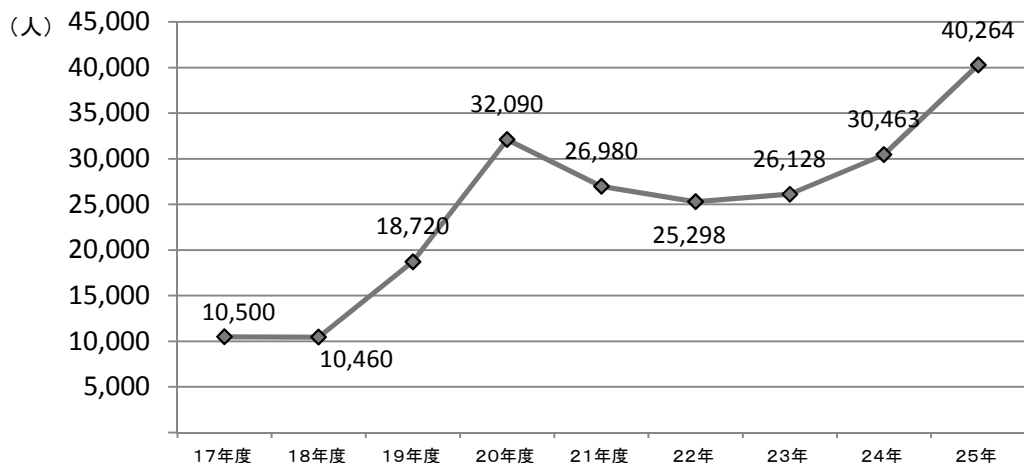


中越大震災復興検証【復興ビジョン】データ

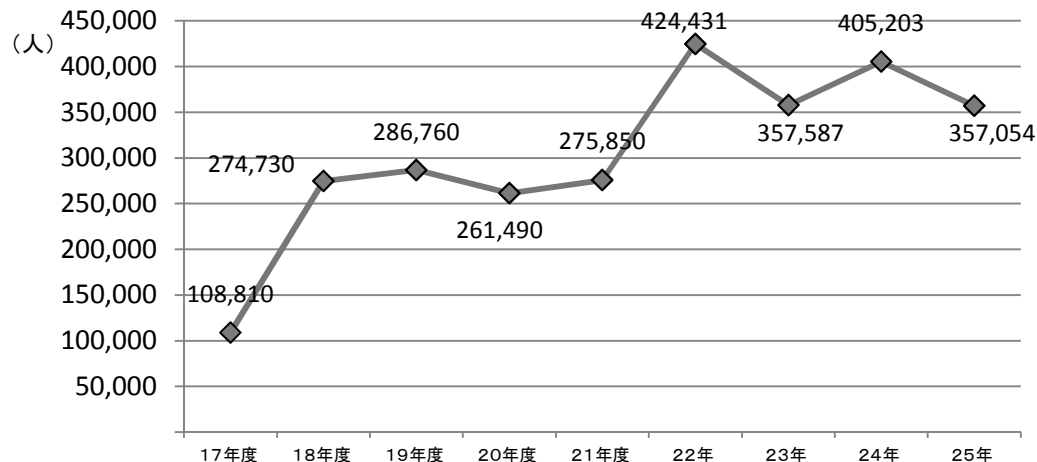
キーワード・・・交流

<観光入込客数>

【山古志】



【川口】



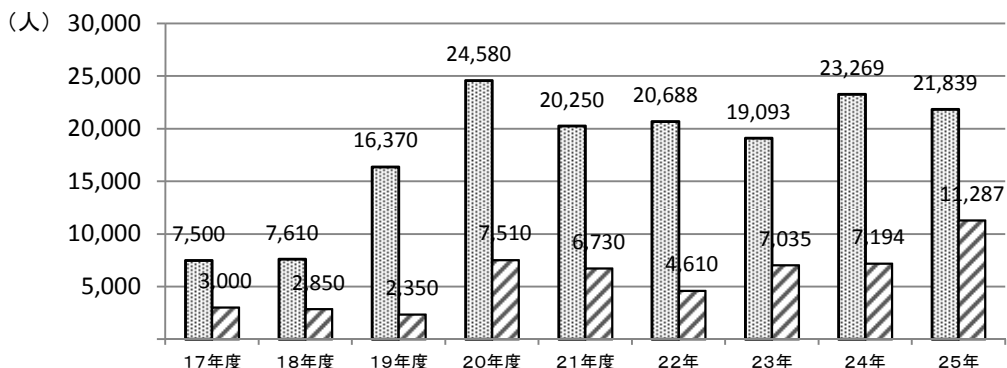
○ 特に大きな被害を受けた被災地の観光入込客数は、震災以降、徐々に上昇傾向を辿っている。

※長岡市提供データを県震災復興支援課集計
 ※H22.3月以前とH22.4月以降は統計基準が異なる
 ※H22.1月～3月の集計数値は、21年度及び22年のいずれにも含まれている

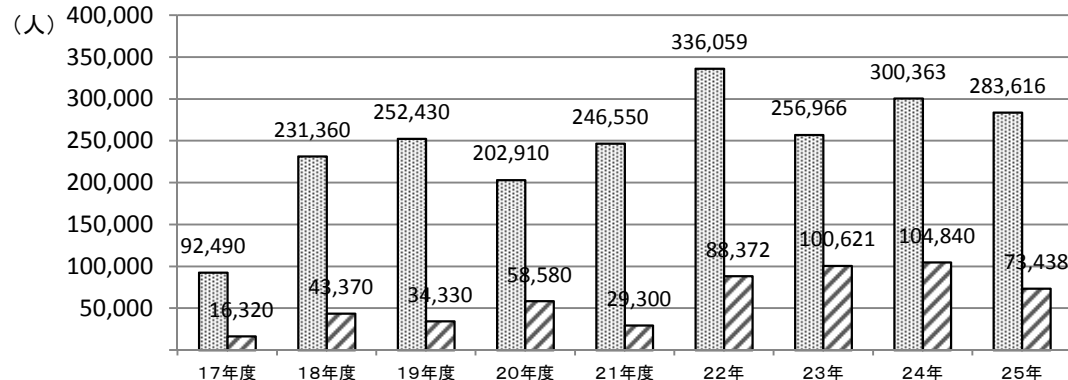
<県内外内訳>

■ 県内客 ■ 県外客

【山古志】



【川口】



○ 県内客・県外客についても、震災以降、堅調に推移している。

※長岡市提供データを県震災復興支援課集計
 ※H22.3月以前とH22.4月以降は統計基準が異なる
 ※H22.1月～3月の集計数値は、21年度及び22年のいずれにも含まれている

中越大震災復興検証【復興ビジョン】データ

キーワード・・・交流

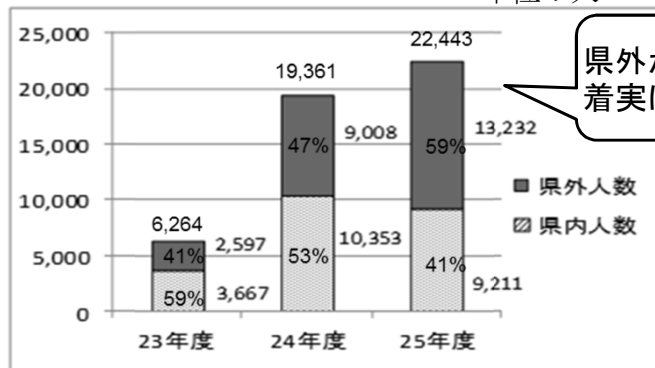
<メモリアル拠点施設の来館者数>

単位：人

施設名	23年度 10～3月	24年度 4～3月	25年度 4～3月	合計
長岡震災アーカイブセンター	10,821	22,891	17,323	51,035
おぢや震災ミュージアム	6,686	17,867	18,770	43,323
やまこし復興交流館			9,601	9,601
川口きずな館	6,252	12,474	14,299	33,025
合計	23,759	53,232	59,993	136,984

(参考)団体来館者の推移

単位：人



県外からの来館者が着実に増加している。

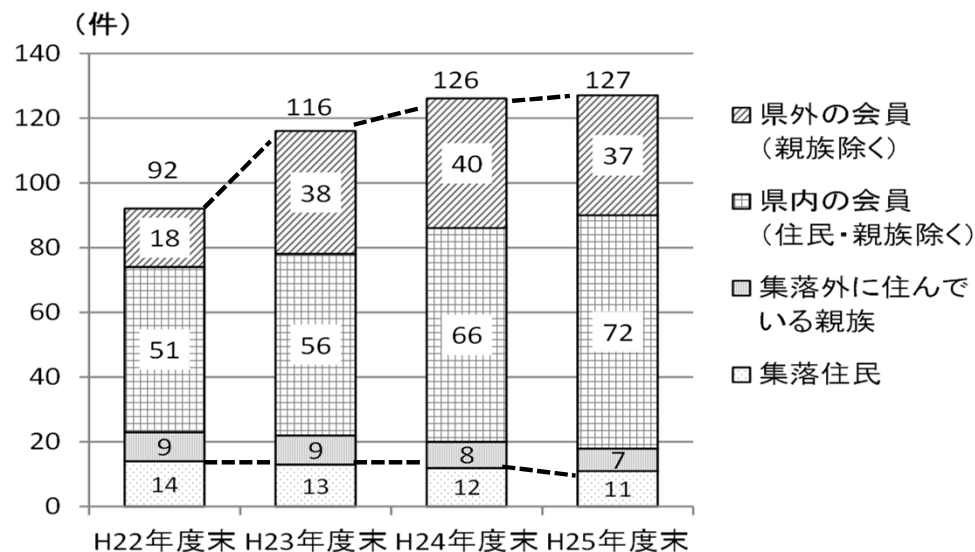
(参考)川口きずな館が主催する地域イベント実施状況

(写真パネル展は除く)

◆平成24年度 39日 ◆平成25年度 42日

※(公社)中越防災安全推進機構 調べ

<山古志木籠ふるさと会のメンバー数の推移>



※H25年度末時点、127件以外に団体2組20件あり(構成員の内訳不明)

※山古志木籠ふるさと会調べ

集落住民以外の会員数が年々増加している。

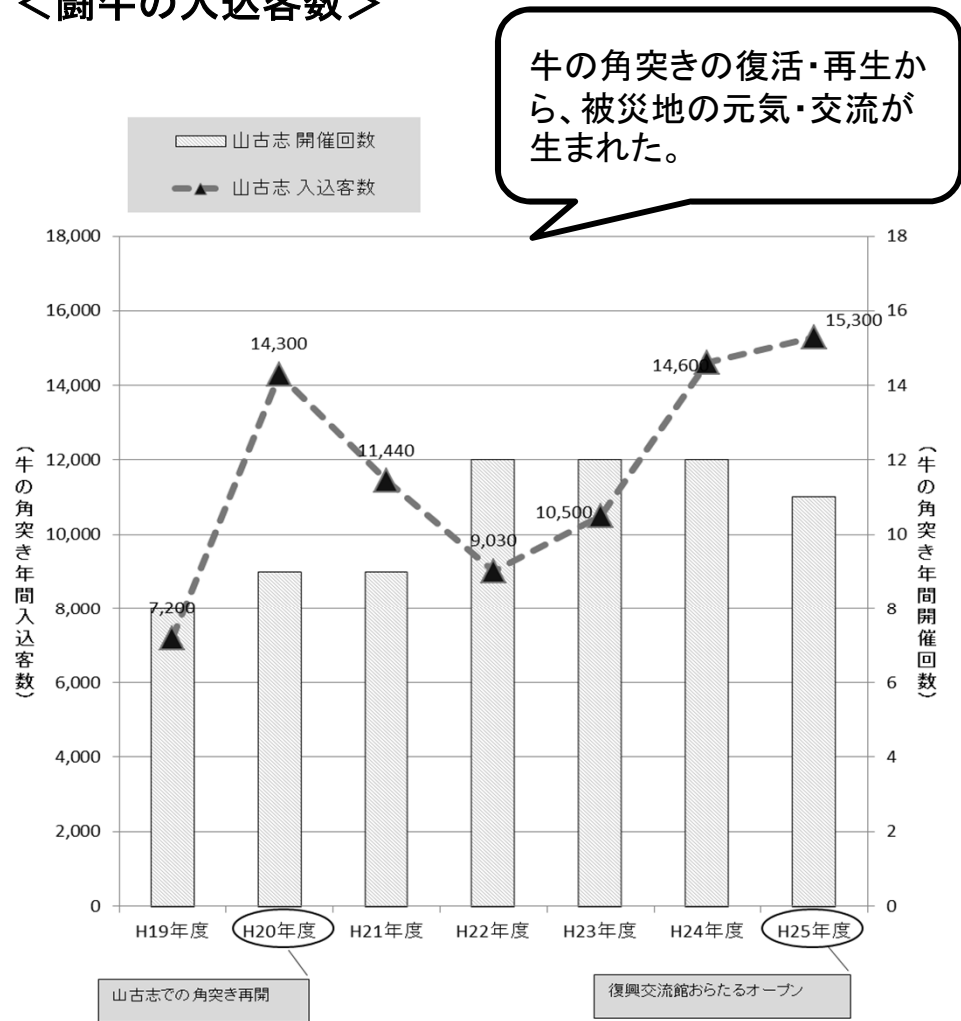
「山古志木籠ふるさと会」

山古志・木籠地域の伝統、文化、暮らしを継承し、地域の振興と発展に寄与することを目的としている。地域内外から募集しており、会員には「山古志木籠ふるさと便り」が毎月郵送されるなどの特典がある(年会費有)。

中越大震災復興検証【復興ビジョン】データ

キーワード・・・元気、交流、誇り

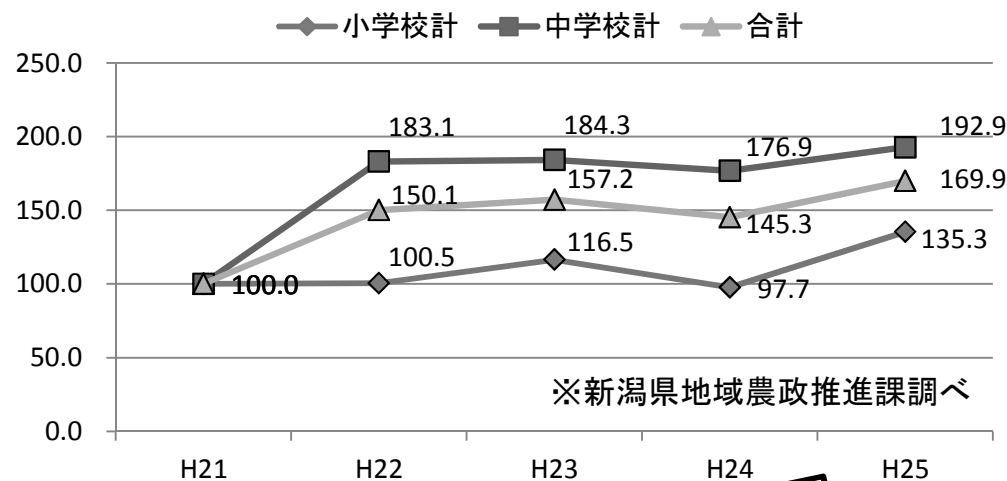
<闘牛の入込客数>



出典：長岡市山古志支所集計値

キーワード・・・交流、元気

<被災地における農山漁村体験活動参加者数の推移> (H21数値を100とした場合の伸び率)



東日本大震災の影響によりH24値に多少の落ち込みはあるものの、増加傾向にある。

◆農山漁村体験活動参加者数とは
農林水産省などが連携し、平成20年度からスタートした「子ども農山漁村交流プロジェクト」に基づく、農山漁村での宿泊を伴う体験活動の参加者数の推移。

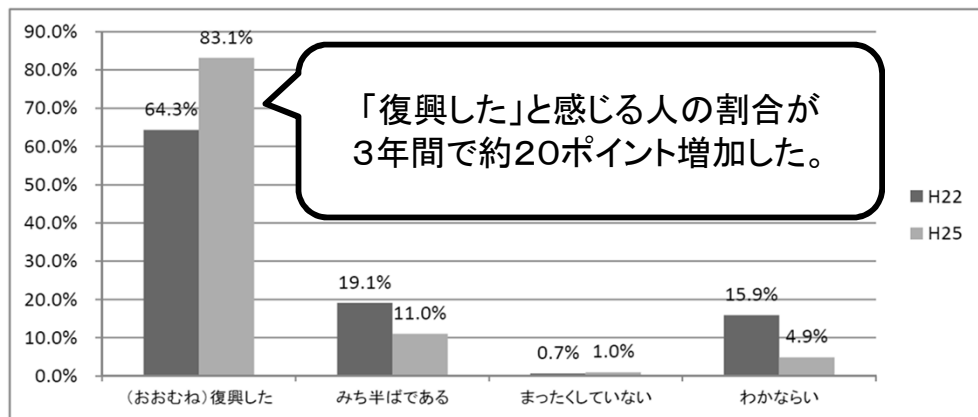
◆対象数値
主な被災地の5つの体験交流団体(ながおかグリーン・ツーリズム推進協議会、小千谷グリーンツーリズム推進協議会、うおぬま体験交流推進協議会、南魚沼市グリーン・ツーリズム推進協議会、越後田舎体験推進協議会)の合算数値。

中越大震災復興検証【復興ビジョン】データ

キーワード・・・復興感

<H25小千谷市市民意向調査結果>

問6. あなたは、小千谷市の中越大震災からの全体的な復興状況について、どのようにお感じになられていますか。



キーワード・・・復興、元気

<震災を契機として復活した、または新たに生まれた集落行事>

市	行事	詳細
長岡市	山古志三ヶ合同さいの神合同盆踊り	仮設住宅からの帰村後の集落懇談会の話し合いの中で、集落行事復活の希望があり、人的、金銭的な面から大久保・池谷・楢ノ木の3集落合同で実施することとなった。山古志公民館池谷分校が呼びかけ、平成23年より毎年、1月にさいの神、8月に盆踊りが継続的に開催されている。
	よってげてえ〜ふれあい市 ※東川口地区	空き地が目立ち人通りの少なくなった本町通りに賑わいを取り戻し、東川口の復興、活性化と地域のコミュニティを深めるため、「本町通り復興活性委員会」を設立し、平成19年4月より毎月1回第3日曜日に定期市を開催している。毎月欠かさず開催し、継続開催記録を更新中である。
	小国八王子集落秋祭り(芋煮会)	平成22年より、地域のお母さん方の郷土料理を宝として地域外に発信していこうと、毎年10月に八王子自慢の「ごっつお」(芋の白和えや山菜料理など)を地域内外の人にふるまっている。
小千谷市	二十村郷盆踊り交流	平成20年、長岡市の川口荒谷・川口木沢・山古志東竹沢、小千谷市東山地区の塩谷集落の4集落合同で盆踊りが復活した。会場は各集落持ち回りとしており、平成26年8月には第7回目を川口荒谷集落で開催した。
	わかとち収穫祭	平成18年に若栃地区において、わかとち未来会議、若栃農家組合、若栃町内会の主催で震災を契機として取組が始まった。例年11月に開催しており、平成25年には第9回を開催。豊作祝いの「大田楽踊り」の披露や「真人むじなの囲い酒」の振る舞い、早稲田大学の学生サークルによる出店なども行われている。

中越大震災復興検証【復興ビジョン】データ

◆新潟県における地震災害からの総合的な復興支援のための調査結果報告書(2010年3月新潟大学災害復興科学センター)

※調査期間 2009年3月15日発送 4月17日締切 有効回答数2042票(有効回答率40.1%)

復旧・復興カレンダー

「自分が被災者であるという意識がもとに戻った」のは、中越地震被災者では過半数に達したのは2年目、70%に達したのは3年目であった。
(阪神・淡路大震災(2005年調査)で70%に達したのは6年目であった。)

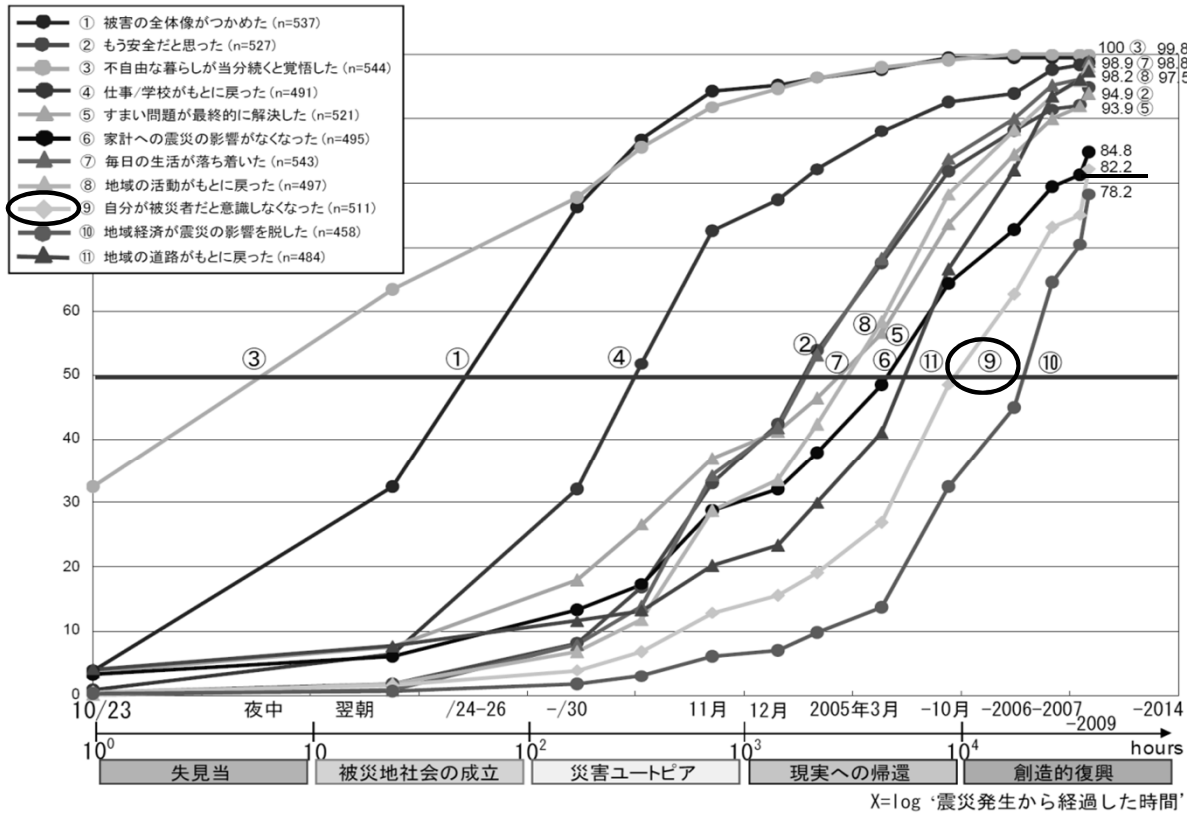


図 4.4-1-1 中越大震災被災地での復旧・復興カレンダー
(2009年3月(震災から4年半))

生活復興感

被災地別に比較すると、中越沖地震が最も低かった。被災地外と比較すると、中越地震についても、復興感は低い水準に留まっていた。

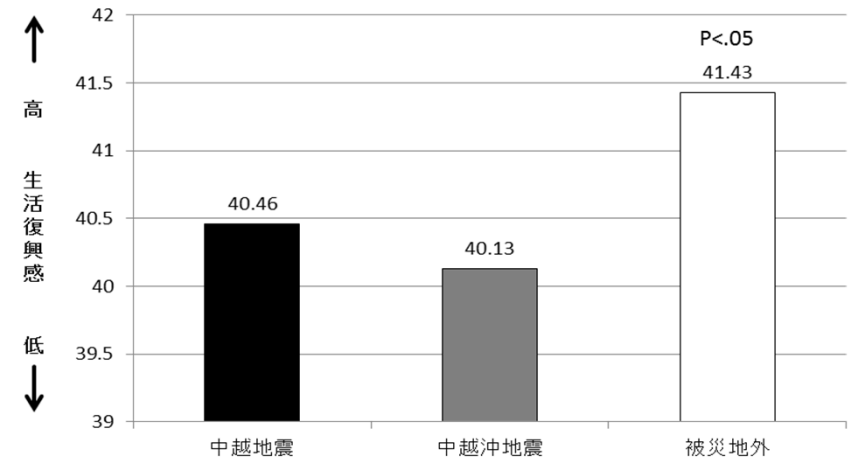


図2-84 被災地別 生活復興感

生活復興感尺度(質問項目)

問37	地震前と比べて増えましたか?減りましたか?	問38	あなたの満足度は?
1	忙しく活動的な生活を送ること	1	毎日のくらしに
2	生きがいを感ずること	2	ご自分の健康に
3	まわりの人々とのつきあい	3	今の人間関係に
4	日常生活を楽しむこと	4	今の家計の状態に
5	将来は明るいと感じること	5	今の家庭生活に
6	元気ではずかしくしていること	6	ご自分の仕事に
7	仕事の量	問41	3 1年後のあなたは? 今より生活はよくなっていますか?

※数値は、生活復興感得点(生活復興感尺度より算出)の平均値
※「被災地外」は、「中越地震」からの生活復興感得点の平均値
(中越地震は全県に影響を及ぼした災害であることが明らかとなっているため)